



幼児の環境 と生活指導

菊池ふじの

孟子の言葉に「居は氣を移す」という言葉がございますが、これは居所はその人の気持ちをかえるという意味でありまして、これ程端的に環境の影響を喝破した言葉はないと思えます。

この他、「氏より育ち」という言葉もありますし、「朱に交れば赤くなる」という言葉もあります。それから孟母三遷の教といつて有名なお話がございます。孟子の母が、孟子を育てる時、家が墓場のそばにありました。孟子は遊ぶとき葬式の真似ばかりしますのです、これでは孟子の教育のためにいけないと思つて、こんどは市井の中に引越しました。すると孟子はこんどは商人の真似をして物を

売買することばかり致します。母は又これも孟子の教育にいけないというので、こんどは学校の近くにしました。すると孟子は、こんどは学校の真似をして、勉強をしたり、お行儀がよくなつたり、いいことばかりしましたので、それから永くそこに住むことにしたというお話。このお話は孟母三遷の教といわれるもので、皆様もお聞きになつたことと思ひます。孟子は今から凡そ二千年も前の人であります。この頃既に環境の影響の大きいことは認められていたわけでございます。

○環境の本質

では環境とは何でありましょうか？ 環境

の定義といひましようか、本質といひましようかそれは何でありましようか？ 私は次のように考えます。環境とは、ある個人をとりまいてゐるもので、しかもその個人と何等かのつながりを持つてゐるものその個人の生活と何かの交渉のあるもの、それが即ち環境だと思ひます。例えば、生れたての赤ちゃんは目も見えなければ耳もきこえてゐるかどうかわかりません。といつて、動かないでゐるものでなくて絶えず手足をうごかしてゐます。これはただ自分の持つて生れた生得的な内部活動があるのみでありまして、未だ環境の影響でうごいてゐるのではありません。それがやがて日が経つにつれて、耳は聞えてくる、目は見えてくる、人の氣配が感じられるようになってくると、もう既に環境が出来てきて、人やまわりに影響されてくるようになります。それから幼い子供の環境は、その幼児をとりまいてゐる、ごく近い周囲のものに限られておりますが、大人の環境は、人によつては、郷土中が環境であつたり、もっと活躍してゐる人は国が環境であつたり、又海を隔てて、世界を環境にしてゐる人もあるわけであります。湯川博士の如きは、正に世界を

環境にしている人の好例であると思います。
このように環境は、子供と大人とはその
広さに格段の開きがあり、ある個人について
みても、成長するにつれ経験の拡大するにつ
れて拡大してゆき、複雑さをも増していくも
のだと思います。

○環境にはどんなものがあります しょうか

次に私達をとりまいている環境にはどんな
ものがありますか。私達の生活に関係の
ある環境にはどんなものがありますか。
これについては、いろいろな立場から言え
ると思いますが。

普通一般的なわけ方として、自然的環境と
社会的環境とがあります。それから大きい意
味では社会的環境の中に含まれるもののだと思
いますが、私達の生活に非常に大きい影響を
与える家庭環境と学校環境、この四つが普通
に言われている分け方だと思います。ではこ
の四つの環境について考えてみましょう。

自然的環境 人は自然の気候や風土によっ
て影響されるものです。この自然環境が世界
の二つの文化の流れをつくったという興味深

いお話が和辻博士の著書（土と文化）に出て
おります。二つの文化とはラテン民族によつ
てつくられた文化とゲルマン民族によつてつ
くられた文化です。南方は気候が暖かく自然
の恵みが豊かですから自然を讚美している生
活ですし、北方は気候が寒く氷雪が多いの
で、絶えず自然と斗わなくてはなりません。

自然南方文化は明るく情熱的でありましょ
うし、北方は意志の強い、ごつい人間が出来る
ことは自然のいきおいだと思います。この気
候風土の影響は住宅にも現われております。
南方は暑いので、水面の上にやぐらをつくつ
て生活するほうがらくでありますし、北の方
は寒いので地の中に穴を掘って生活をする。
この発生の型が今でも残っているといわれ
ております。西洋の住宅の様なれん瓦作り
は、穴を住宅とした原始家屋の発達してきた
型であり、日本のような、木造の床の高い住
宅は南方原始民族の住宅の発達してきた型で
あって、それ故に日本民族は南方民族に起源
を持つのだということをきいております。

私共日本人はまめで活動的であると言われ
ますが、これもこの自然的環境の然らしめる
ところであると思います。即ち日本には絶え
ず春夏秋冬の訪れがあつて、うっかりしては
いられないのです。暑いと思つていこうちに
秋がやってくる冬がおそつてくるという有様
で、のん気にしては居られません。障子を貼
りかえるとか冬物を用意するとか、始終努力
の生活をしなければならぬわけでございます。
す。

手近かな経験で申しますと、お天気によ
い、すがすがしい日には、子供たちは静かに
おちついてよく遊び、むしろ暑い風の強い日な
どには、子供たちは何となくざわつき、衝突
の多いことは、私共よく経験していること
でございます。この自然の影響は、自然が単独
で影響するというよりも、その社会的環境と
からみ合つて、影響を与えていることが多い
のでございます。

社会的環境 人々は自分の住んでいる社会
の、ものの考え方とか、習慣とか、或は価値
判断などに影響され順応していくものなので
ございます。大きくいえば東洋と西洋、近く
でいえば山の手と下町とで違つてきておりま
す。農村と都会、漁村と農村とでも風俗習慣
が異つているのはこの社会的環境の差が現れ
ているわけなのでございます。もっと狭めて

考えるならば、貧民窟に住む子供は悪い影響をうけるし、知識階級層の住む社会の子供は、それらしい影響をうけているのは、私共の日常見慣れている、誰もが納得できることがらなのでございます。

家庭環境 吾々に最も近い環境であります。人の人となりに最も大きい影響を持つと思われるのはこの家庭環境ではないでしょうか？

近頃社会問題を惹起している多くの犯罪の殆んどが、この家庭環境の貧困によるものであることは、日々の新聞紙の報ずるところによっても明らかであります。家庭環境の貧困とはどういうことでしょうか。そこには単純ですっきりして正しい豊かな親や家族の愛情の欠如、経済的な貧困、兄弟姉妹の過多。家庭の教養や趣味の低いことなどが指摘されております。

学校環境 私共教育に従事している者が絶えず努力して、少しでもよくしようとしていているのはこの学校環境であります。幼稚園の場合には幼稚園環境、保育環境であります。よい学校では生徒が自然によくならず、勉強するクラスにおれば、生徒が自然に

勉強するようになるのかは、私達のよく知っていることでありまして、学校環境の如何が、生徒に影響することの大きいことは今更言うまでもありません。問題は、施設の面に於て、又人的の面に於て如何にすればよりよい環境を作ることができると、学校に關係している人は日夜工夫をこらし、努力をしているわけなのでございます。幼稚園の環境におきましても、先生の問題、施設の問題、それから更に細かに幼児のいろいろな生活場面の環境を整えることが考えられなければなりません。私共が一番知りたいと願っているのは、幼児のいろいろな生活場面の理想的な環境はどのようなあらねばならないか？ 例えば絵画製作の生活を充分にさせるには設備としてどういうものを揃えなければならぬか、材料としてどういうものを用意すべきか、先生の配慮によって雰囲気をもどくようにすべきであるか、又個々の指導、場面面での指導は、どのようなのがよいのか、ということだと思えます。音楽リズムの生活、健康安全の生活に於ても皆問題点は同じだと思えます。

先生は学校環境に於て最も大切な、影響す

ることの大きい人的環境であります。指導もその先生から流れてくるものであるとすれば、大きな意味で私達教師の関心事はすべて、大きな意味での環境構成にあるといえると思えます。

○環境が現代教育に於て大きくとりあげられるようになった考え方は

それは学校とか教育とかいうものに対しての考え方が変わってきたことによると思えます。現代は、学校を単に知識を授けるところだと単純に考える人はなくなりまして。この頃は学校はいろいろの経験をさせて学ばせることである、幼稚園というところも、幼児にいろいろな豊富な経験をさせる、生活をさせる、というふうに見えるようになりました。ただ豊富でありさえすればよいのではなく、そこには先生による選択がなければなりません。選ばれた望ましい生活経験をできるだけ沢山、しかも広くさせるのです。「為すことよって学ぶ」という言葉がございますが、全く机上の空論だけでは真実に知ることができません。やってみなくてはほんとうに知ることではできないものでございます。殊

に、知情意のゆらぎが未分化で、身体も精神も渾然一体となっていて、抽象してものごとを考えると、時期に達していない幼児にあつては、なお更のこと、この考え方でいかなければなりません。

この、先生の配慮による豊富な環境、先生の選択による望ましい生活経験を潑刺として生活することは、幼児にとって誠に真実の生活であります。こうした環境で、充実した生活をするには、それ自身貴い生活でありまして、決して将来の為にさせる生活ではありません。小学校入学の準備の為に生活ではありません。併し、このような、幼児の年令相応の即ち成長発達に即した、充実した生活をするには、必ずや、将来の充実した生活を打ち立てるための土台になることは疑いの余地がありません。砂上の楼閣という言葉がありますが、幼年時代に、子供の成長発達に程度も考えず、子供の興味も要求も顧慮せず、何等の環境も整えない生活をさせておいて、ただ将来の準備のみ夢みるのこそ砂上の楼閣といわなければなりません。

このように、教育といふとなみについて考え方が、環境ということを大きく浮かび

上らせるようになったのだと思います。

○環境はどの程度影響するものであろうか

環境の影響は非常に大きい、こう申してまいりますと、この考えを極端に進めますと、人は環境に左右されてしまつて、その人自身ではどうするということはできないものだ、という考え方になり、この考え方も世間に相応あるようですけれど、これに讃成は出来ません。何故なら、人間には、意志の力もありますし、善悪の判断の力もある筈です。どんな大犯罪を犯した人でも、悪いことを全然知らないでやっていることはないので、その自分というものを見ると必ず悪いとは知っている、又悪いことをすることを何か理由をつけて、ジャステファイ、正当化してやっているのがあります。学校のクラスの問題にしても、よいクラスの生徒がよくなることは、たしかです。併し、またよい生徒が二、三人おればクラスがよくなることもたしかだと思ひます。人は環境から影響をうける、左右もされませんが又環境を左右することもできるものです。クラスが生徒をよくするというのもたしかで

すし、具体的には生徒がクラスをよくするのであるということも考えられるのであります。

このように環境は人間にとって非常に影響することが大であります。このことについては誰も異論はないと思ひます。ただ、どの程度影響されるだろうかという疑問が、誰でも知りたいと思う重要なことなのでございませう。

例えば、先生の指導の差異で、子供の知能や態度や実践にどのような違いが生ずるか、又幼稚園の施設や材料の違いでどんな差異が幼児の上に現われるか、という疑問は誰でも持っている問題だと思ひます。

今まで長い間、幼児の教育にたずさわつてきておりましたのに、これ等のことについて自分で実験をしたり研究をしたりして、この疑問に対していくらかでも解明を与えることをしなかつた自分の怠りに対して、今更慚愧に堪えないのであります。今迄も始終この問題について考えてまいりました。過去の、種々な 経験をふりかへてもみましました。人の研究をも読んでみました。その中で興味を惹いたものにソ連のサルスキーという人の研究報告がありました。サルスキーが、ソ連の工

業都市の中心部にある幼稚園と、郊外にある幼稚園の二つについて子供達の遊びを研究したものです。都市の中心部の生活は、革命後の新しい生活様式をとっていて、家々には宗教はなく革命祝祭日があり、因襲的なものはありません。これにひきかえ、郊外の住宅地の生活は、宗教上の儀式とか習慣などは以前の生活様式をとっているのです。こういう二つの幼児のグループを比較したときに、郊外にある幼稚園には古い生活様式を模倣した遊びが四九%見られたが、中心部の幼稚園には、わずか六・三%に過ぎなかったと報告しております。

この結果は、大人が持っている生活習慣や方法や思考が、幼い子供の思考や行動に取り入れられていることを証明しているものですが、この結果だけで直ちに、この遊びに現われた生活様式が真に子供らの社会的関係に影響しているかと判断することはできません。生活様式は模倣によって相当程度大人の社会のものが取り入れられては居りますが、真の社会的関係に於ての協同とか同情とかにどの程度真実な意味で影響を与えているかという点とはもっとこういう生活場面を一層集中的に

長期間にわたって研究しなければ分らない、と研究者は結んでおります。

なお野間教育研究所の「家庭環境の教育に及ぼす影響」についての研究報告の中で、六つの中学についての研究結果では、一例を挙げれば、経済的条件のよい家庭、即ち収入が多く、居住条件にも恵まれ、学習部屋を与えられているというほうに成績のよい生徒が明らかに多いと報告しております。併し、私達の周囲には戦後のための居住条件が極めて悪く、一室に四、五人の家族が同居している状態です。よき成績をあげている人を沢山みております。又同じ調査では、貧困な家庭の子弟は、有福な家庭の子弟に比べて明らかに成績が悪いという結果が出てをりますが、このことについても、そうでない多くの人を知っております。二宮尊徳、野口英世など歴史上の人物にも多くの例をあげられますが、又私達の周囲にもこの研究の反対を示す数多の事実があります。又同じ教室同じ先生の下で学校生活をしているのに生徒の能力や態度は皆同じではなく、生徒一人一人によってそれぞれ違います。それよりも、同じ両親、同じ家庭に育ってさえも、兄弟は一人として同じよ

うでないことは、私達の経験からうなずかれる事実なのですが、これはどういうわけでしょうか？「人によって違うからね」と簡単に言ってしまうておりますが、この言葉こそ実に重要な意味をもっていると思います。

この環境の影響程度は、知的素質の遺伝とか、その時の興味及び努力の程度、教育内容の性格、並に指導の適否、グループの性格、身体発育の状況などによって、決定的には言えないと思います。同じ人の場合であっても、その時の興味や精神の安定度などによって、行動や態度がいろいろ違っているのです。ごさいます。或る研究でも、この影響程度如何という問に対しての答は、はい、いいえという明瞭な答ではなくて、多分、恐らくという答である、と述べておりました。実に、この問題は、重要にして、誰もが知りたいと望んでいる問題なのに、答は以上のようにしか言えないのであります。では、幼児の生活指導の要諦はどこにありますか。

前にも述べましたように新しい教育の考え方では、教育は生活であります。生活は環境との交渉によってはじまるのであります。一方、幼児はまた実に模倣性や被暗示性に富ん

でおります。このことから、幼児の生活指導の要諦は自ずと導き出されてくると思えます。即ち、物的環境を出来るだけ豊かに整えることであります。そしてよい先生の巧みな指導によって、目標の方向への興味や必要感を潑刺と起させて或る生活への動機づけをすることに、尽きると思えます。子供は、環境を一寸かえただけでも影響のあることは、私共が日々を経験していることでございます。ここへ、巧みな先生の指導があれば、いともたやすく教師の意図した生活へひき入れることができることも私達が常々経験していることでございます。

例えばあるものの製作の生活へ幼児をひきいれようとするときに、先ず先生は、子供より一步先んじて、おもしろうにその製作をしていることです。きっと子供がそばへきて「先生何をしているの?」ときくでしょう。「先生〇〇を作っているの」と答えますと、「僕も作りたい、私も作りたい」というふうに容易にその製作生活へはいつてまいります。材料を揃えておいただけでもそうした生活へはいることはしばしば経験していることでございます。

又歯を磨くしつけをしたと思うときには言うまでもなく、流し場を掃えなければなりません。そして子供用の歯ブラシを揃える、歯みがきの弊を整えるというふうにしますと、新しいものに興味を持ち易い幼児は、喜んで歯をみがくという生活にはいつてまいります。これに先生の巧みな指導がはいったり、更に幻燈とか映画などで、虫歯の害を、それとなく子供にもわかるようにおもしろく編集してあるものを見せたり致しますと、苦勞少くそのしつけができることは、私共の経験ずみのことでございます。どのような、という具体的な環境をつくることと、どのように、という具体的な指導法が、私共實際家の、つねに求める、そして絶えず工夫をこらさなければならぬ問題なのでございます。生活指導の要諦は、豊かな環境構成と、よき指導があれば、そこにはおのずから、内からの潑刺たる興味と必要感がわきいでるものであると確信するものでございます。

お茶の水大附属幼稚園教諭

日本幼稚園協会主催

ゆうぎ講習会

日本幼稚園協会では七月二十一日より二十五日の間、講師に戸倉ハル先生を迎え、ゆうぎ講習会を開催した。

お茶の水女子大学主催

幼稚園教員免許法認定講習会

本年度、幼稚園教員免許法認定講習会は、六月下旬より七月下旬まで、お茶の水大附属幼稚園において開催され、科目は一般教育、教職科目、専門科目等であった。

お茶の水女子大学附属幼稚園

講習会係り